

ロジスティクス環境会議  
第8回広報・普及専門委員会

2005年9月5日(月)15:00～17:00  
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) CGLジャーナル第2号編集企画(案)について
- 2) 第2回フォーラムについて
- 3) その他

3. 閉 会

配布資料

- 資料1 : CGL JOURNAL 第2号編集企画(案)  
資料2 : 第2回環境調和型ロジスティクス推進フォーラムの概要(案)  
参考資料1 : CGL JOURNAL 2005年度発行計画  
参考資料2 : ロジスティクス環境会議 2005年の活動のロードマップ  
参考資料3 : 第1回環境調和型ロジスティクス推進フォーラムプログラム  
参考資料4 : 第8回専門委員会 議事録

以 上

CGL JOURNAL 第 2 号編集企画 (案)

1. 構成

1) 省エネ法内容 (2 ページ)

- ・ 省令及び判断基準が固まった段階でまとめる。(現状、10 月末以降に省令及び判断基準が公布される予定)
- ・ 対象企業は具体的に何をしなければならないのかが分かるような内容とする。

2) 2005 年度活動状況 (4 ページ)

① CO<sub>2</sub> 排出量算定に関する内容 (2 ページ)

- ・ トラック輸送にかかわる二酸化炭素排出量算定についての説明会及び電話での問い合わせ等の内容をもとに Q & A 形式で掲載

② 第 1 回グリーンロジスティクス講習会 (7 月 28 日開催) 報告 (0.5 ページ)

③ ロジスティクス環境会議 HP の紹介 (0.5 ページ)

- ・ 省資源事例集新規作成
- ・ 関連法規、用語解説の新規作成
- ・ リンク集の更新 (海外版の新規作成)

④ 2005 年度活動のロードマップ (0.5 ページ)

3) その他

① グリーン物流パートナーシップ会議の動向 (0.5 ページ)

2. 発行時期

省エネ法のパブリックコメント募集が 10 月頃、省令及び判断基準公布が 10 月末以降となっていることから、公布後発行とする。

## 第 2 回環境調和型ロジスティクス推進フォーラムの概要（案）

### 1. 企画にあたって

基本的には、本年 12 月または来年 1 月を目処に、環境会議のシンポジウムを開催したい。開催にあたっては、シンポジウムの内容を広く産業界に啓発普及するため、グリーンパートナーシップ会議とジョイント形式で開催することが望ましいと考えられる。

ただし、内容的には、CGL 活動の集大成は来年 3 月以降に提示すべきであり、今回のシンポジウムでは、来年 4 月施行を控えた「改正省エネ法」に焦点を当てた企画で構成したい。

### 2. 会 期

2005 年 12 月（または 2006 年 1 月）

### 3. 会 場

経団連会館（予定）

### 4. シンポジウムの論点

- ・改正省エネ法施行に向けた、エネルギー使用量の算定をめぐる荷主（発着）企業と物流企業のパートナーシップのあり方
  - ※企業における推進上の課題等を中心に
- ・企業のエネルギー使用量算定の推進を支援する行政施策のあり方

### 5. プログラム

#### 第 1 部 グリーン物流パートナーシップ会議

#### 第 2 部 ロジスティクス環境シンポジウム（パネルディスカッション） ※2 時間（予定）

テーマ：荷主企業と物流企業のパートナーシップによる環境負荷低減  
～改正省エネ法施行に向けて～

##### ◆司会進行

学識経験者

##### ◆パネラー候補

<行 政>

- ・経済産業省 資源エネルギー庁 省エネ課
- ・国土交通省 総合政策局 環境海洋課

<産業界>

- ・CGL 代表
- ・発荷主企業
- ・着荷主企業
- ・輸送事業者

以 上

2005年5月19日

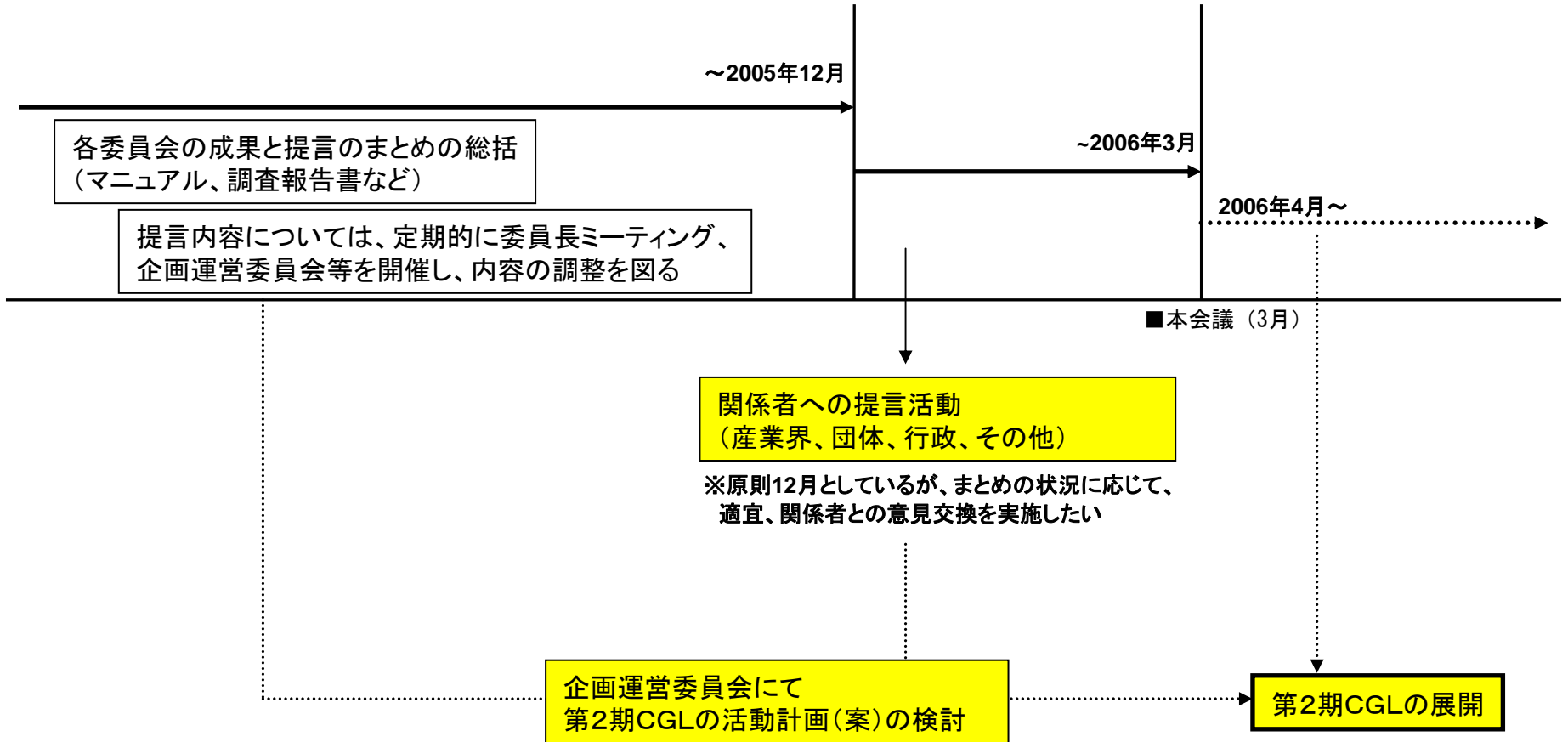
参考資料1

2005.9.5

CGL JOURNAL発行計画

発行号（発行予定日）	環境会議の活動状況	関係行政機関の施策動向等	その他
第1号 (2005年5月)	ロジスティクス環境会議 第3回本会議報告 ・2004年活動内容と課題、2005年度活動計画 ・企画運営委員会からCGLメンバーへの提案	改正省エネ法の概要の紹介 ※6月より、省令の検討委員会が スタート	
第2号 (2005年10月頃)	2005年度活動状況の中間報告（各委員会からの報告）	省エネ法の内容 ※省令が固まり、法令告示時期	
第3号 (2006年3月頃)	ロジスティクス環境会議3ヵ年の活動報告と提言内容 今後の展開	物流施策大綱（新版）の内容 ※現大綱の目標は2005年	

- ・ 関係行政機関の施策動向については、編集作業時点におけるトピック的なものを掲載していく。



ロジスティクス環境会議  
第7回広報・普及専門委員会 議事録

I. 日 時：2005年7月27日（火） 15：50～17：10

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：9名

IV. 議 案：

- 1) ニュースとジャーナルについて
- 2) 第2回フォーラムについて

V. 開 会

小西委員長により、開会が宣された。

VI. 議 事

小西副委員長の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) ニュースとジャーナルについて

事務局より、資料1に基づき、ニュースとジャーナルの基本的な枠組みについての説明が行われた後、以下のような意見交換が行われた。

【主な意見】

(全体を通して)

委 員：国際動向の記載がなくとも、CGLの進捗と行政動向について情報提供できれば問題ないのではないか。

委 員：ニュースと同じ情報をジャーナルに掲載しても構わないのではないか。情報が重複することよりも、情報が漏れる方が問題だと考える。

委 員：読者は全く知らないという前提で、内容を検討した方がいい。

委 員：事務局案どおり3号発行してほしい。

委 員：ジャーナルについては、環境会議メンバーだけにとどまらず、広く配付してはどうか。

委 員：環境会議メンバーは費用を払っていることから、メンバー以外については、無料ではなく、賛助会員のような形でニュースとジャーナルを配信してはどうか。

(次号の企画について)

委 員：ロジスティクス環境会議とグリーン物流パートナーシップ会議の役割の違い等について掲載してはどうか。

委 員：トラック輸送に関する二酸化炭素排出量算定の検証結果等を掲載し、「『燃料法』の精度が優れているのでこの方法を使おう」と思わせるような内容を掲載してはどうか。

委 員：改正省エネ法を受けて、企業として実際に何をしなければならないのかを具体的に掲載する必要があるのではないか。

委 員：京都議定書や改正省エネ法を受けて、二酸化炭素の話題が注目を集めているが、例えばトラックについて言えば、NOXやPMなどの規制の問題もある。二酸化炭素だけにとらわれず、幅広く情報提供すべきである。

事務局：CGLでは、ロジスティクス分野における環境負荷低減を目的としているため、二酸

化炭素や包装材以外について、例えばコラムで紹介することも一つの案だと考える。

委員：リバーズロジスティクス調査委員会で、8月に環境省との情報交換を行うので、その内容を掲載してはどうか。

**【決定事項】**

次号の編集企画案を事務局で作成し、次回委員会前に事前にメールで配付し、ご検討いただく。

2) 第2回フォーラムについて

事務局より、説明が行われた後、以下のような意見交換が行われた。

**【主な意見】**

委員：昨年は経団連会館で行ったが、参加申込者数を考えると、会場を変更する必要があるのではないか。

事務局：会場を変更する方向で検討している。

委員：グリーン物流パートナーシップ会議と共催で行う場合は、プログラム等が対等になるようにしてほしい。

委員：昨年度実施した際も8月から検討を始めたが、準備時間が足りなかったため、今年度については、できるだけ早く検討をしたほうがよい。

委員：グリーン物流パートナーシップ会議と共催で開催しなければいけないのか。

事務局：必ずしもその必要はない。ロジスティクス環境会議として、開催時期を判断すればよい。

委員：環境会議としてまとまった成果等を発表するのであれば、本会議が行われる3月以降の方がよいし、事例の紹介ということであれば、12月や1月でもよいと思う。したがって、フォーラムを開催するねらいをきちんと明確にした上で、時期等を設定すべきである。

委員：集客を考えれば、グリーン物流パートナーシップ会議と共催した方がよい。

**【決定事項】**

事務局でフォーラム等の目的を明確にした上で、案を作成し、次回委員会で議論する。

3) その他

**【決定事項】**

次回委員会を9月5日（月）15時～17時にJ I L S会議室で開催することとした。

VI. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以 上